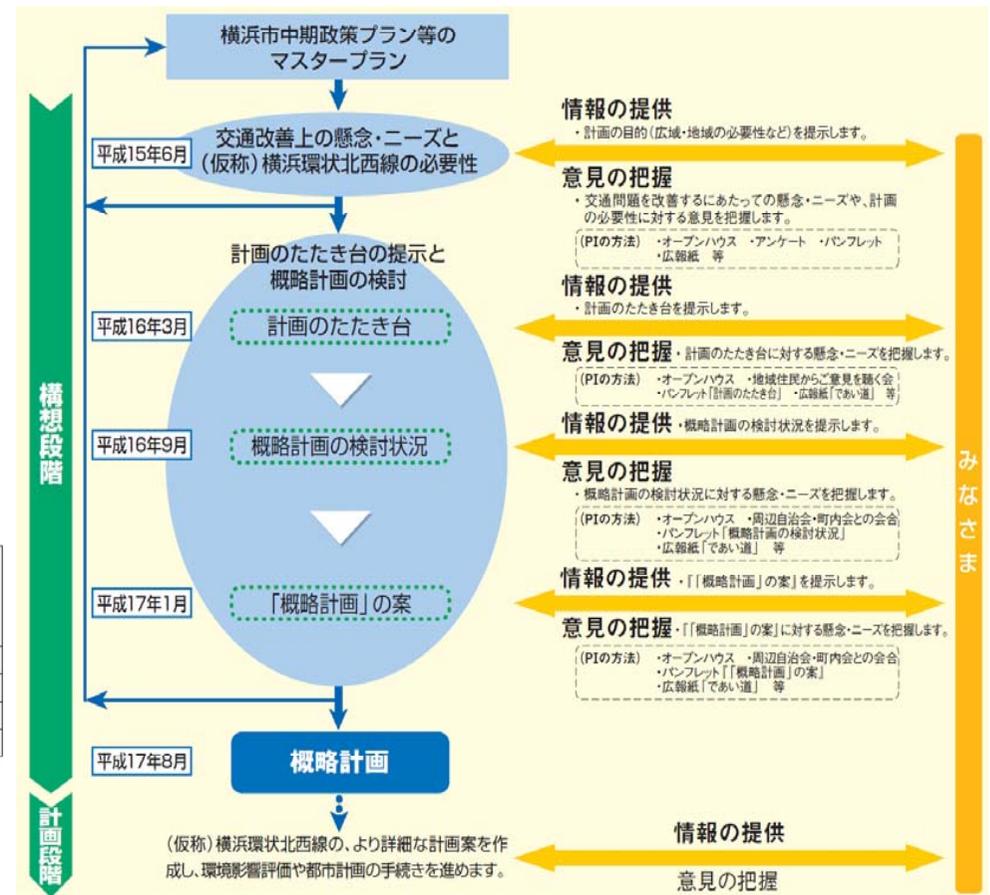


計画策定プロセスに係る取り組み

① 道路整備(横浜環状北西線) (1/2)

1. 計画検討の進め方やP I の方法については、有識者委員会を設置し、助言・評価を得た。
2. 『オープンハウス』を開催するなどして、市民の方との意見交換を実施。
3. 構想段階において、住民の提案から7つのルート構造の代替案を設定。
4. 比較検討に際して、住民の懸念やニーズをふまえ、4つの比較検討の視点を設定。

計画検討の流れ



みなさま

計画策定プロセスに係る取り組み

① 道路整備(横浜環状北西線)(2/2)

1. 計画検討の進め方やP I の方法については、有識者委員会を設置し、助言・評価を得た。
2. 『オープンハウス』を開催するなどして、市民の方との意見交換を実施。
3. 構想段階において、住民の提案から7つのルート構造の代替案を設定。
4. 比較検討に際して、住民の懸念やニーズをふまえ、4つの比較検討の視点を設定。



7つのルート・構造の代替案

オープンハウスの開催状況



検討の視点

交通	北西線による交通サービスについて横浜青葉インターチェンジから港北インターチェンジ間の所要時間などにより比較検討しました。
環境	周辺地域のみなさまの居住環境への影響に関し、大気質や騒音・振動、景観、日照などについて、また、周辺地域の自然環境などについて比較検討しました。
土地利用	周辺地域のみなさまの土地利用への影響に関し、道路用地の幅に含まれる可能性がある建物数、周辺地域のまちづくりへの影響や、農地の日照への影響について比較検討しました。
社会経済	周辺地域への影響を少なくしつつ、費用をできるだけ抑えるべきであり、そのため事業費について比較検討しました。

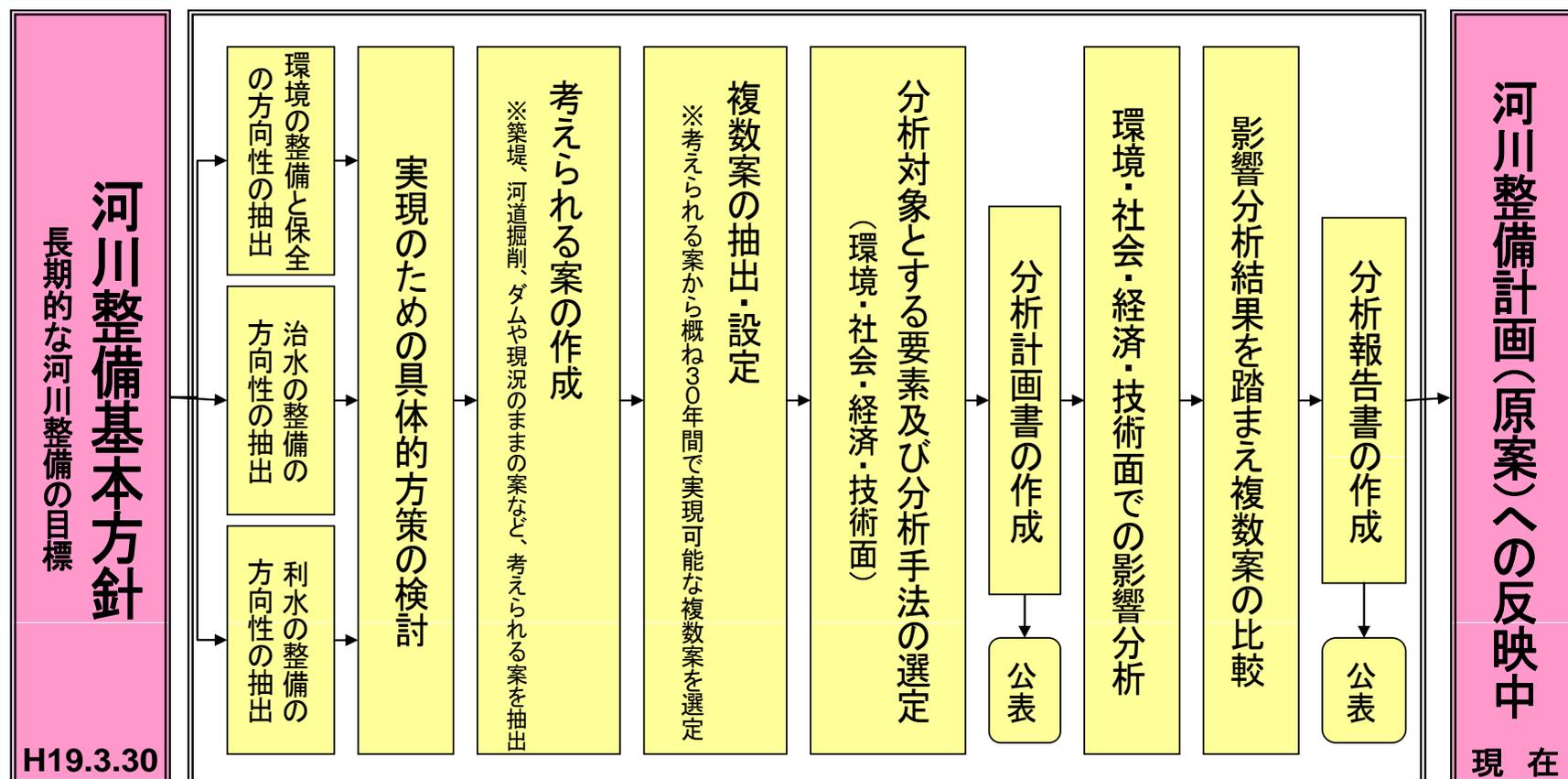
計画策定プロセスに係る取り組み

②河川整備（揖保川）

1. 河川整備基本方針を踏まえ、河川整備計画段階において環境・社会・経済・技術面から影響分析を実施。
2. 複数案を設定し、影響分析結果を踏まえた比較評価を実施。
3. 現在、学識経験者や地域住民の意見を聴きながら、河川整備計画の検討を行っている。

河川及び流域の概要

- ・兵庫県たつの市、姫路市等を流下し、瀬戸内海播磨灘に注ぐ幹川流路延長70km、流域面積810km²の一級河川
- ・上流部は急峻な中国山地、中流部は市街地を形成した盆地、下流部は人口・資産の集積した播州平野



計画策定プロセスに係る取り組み

③ 港湾整備(大分港)

1. 大分港の長期構想(概ね20~30年後を想定)を策定するため、地域住民や学識者等から構成する委員会を設置し、社会面・経済面・環境面・技術面等の様々な観点から総合的に検討。
2. 市民アンケートやHP上の意見募集等により各段階で幅広い意見を把握し、構想に反映。
3. 長期構想を踏まえ、概ね15年後を目標とした港湾計画(法定計画)を策定。

2004.10.29~11.20

大分港に関する市民アンケート及び
港湾関連事業者ヒアリング調査

検討に
反映

2005.2.24

大分港長期構想検討委員会
(第1回) 課題の検討・共有など

2006.6.12

大分港長期構想検討委員会
(第2回) 空間利用の構想など

意見募集
(HP上)

2006.6.28~7.28

大分港長期構想(案)
に関する意見募集

意見反映

2006.8.24

大分港長期構想検討委員会
(第3回) 施策の検討等

大分港長期構想策定

2006年11月港湾計画策定

主なアンケートの結果等

企業からの意見

- ・ 乙津(おつ)地区では冬期の静穏度が悪い

地域住民からの意見

- ・ 憩いやレクリエーションの場を創出していただきたい

⇒ 親水・アメニティゾーン(親水施設等)を計画

NPO等からの意見

- ・ みなとの賑わい空間を創出していただきたい

⇒ 空間利用構想において交流拠点ゾーン(旅客船バース等)を計画

大分港長期構想検討委員会

- 工学・経済学等の専門家、港湾利用者、地域住民、行政関係者といった多様な主体により構成
- 会議は公開で行い、資料等もホームページで公表
- 概ね今後20~30年を見据えた「大分港長期構想」を策定